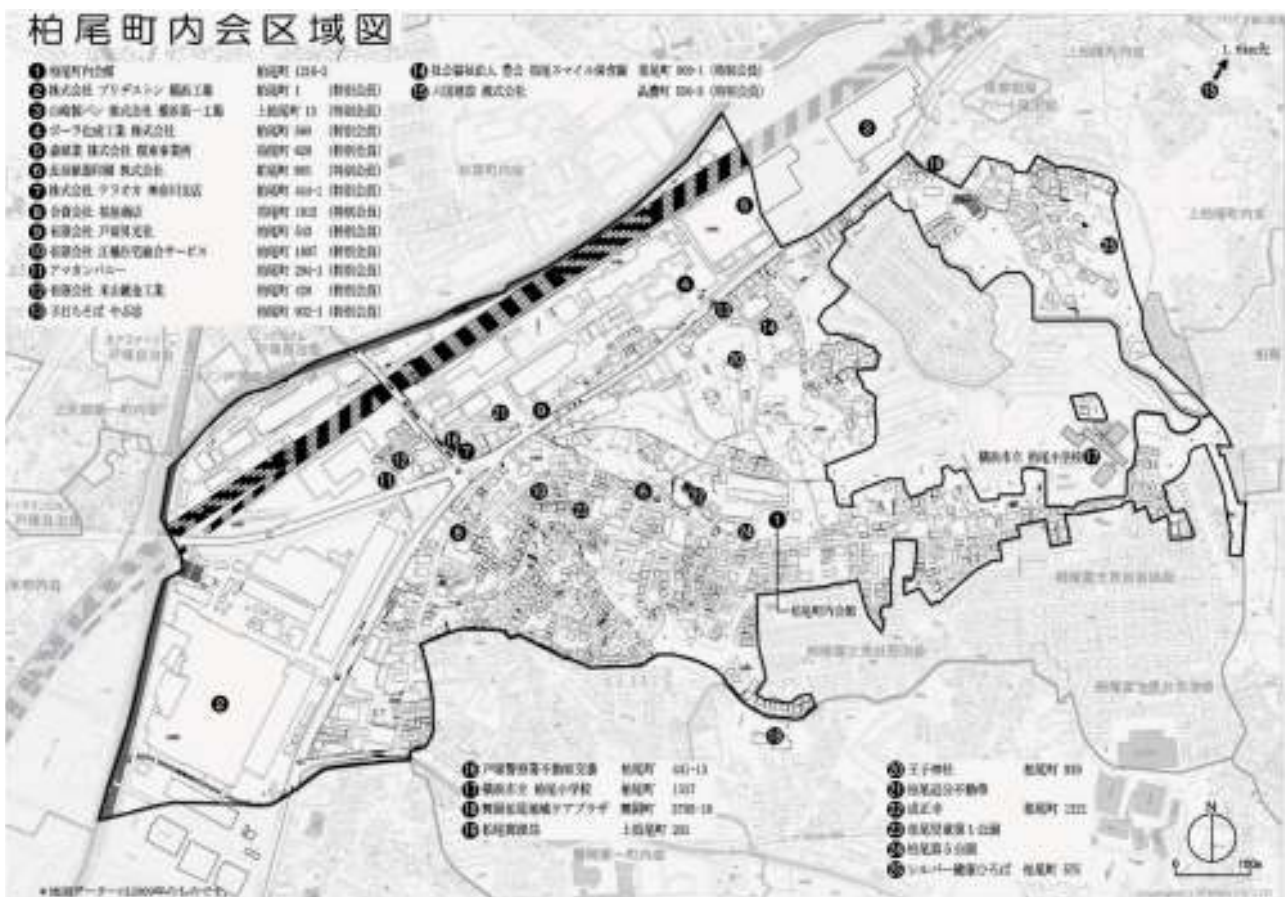


IV 地域事業所・施設・商店編

旧東海道に面していたことから柏尾には昔から多くの事業所、施設、商店が存在しており、ともに助け合って現在に至っています。

この編では、こうした事業所の中から柏尾町内会の特別会員14事業所に寄稿をお願いし、回答をいただいたものを前半に掲載させていただきました。後半では地域の皆さんに親しまれてきた商店の紹介記事や聴き取り調査の結果と地域内の施設、ケアプラザやコミュニティハウスの紹介記事を掲載させていただきました。

この編の編集にはこうした地域事業所や商店の関係者も加わり貴重な証言もいただきました。心より御礼申し上げます。



〈柏尾町内会区域図〉

1 森紙業株式会社



森紙業株式会社関東事業所

操業開始 1960年3月

敷地面積 18,091㎡

生産品目 段ボールシート・ケース



工場の成り立ちと柏尾町とのつながり

森紙業グループは大正13年に段ボールを製造する会社として始まり、現在では全国に36ヶ所に工場を持つ包装資材の総合メーカーです。

森紙業グループの経営には自己責任と積極経営を旨とする「分社化」、そして市場ニーズに即応するための「現地主義」という二つの個性があります。

森紙業株式会社は京都に発祥した関西に拠点を置く会社でしたが、関東圏の事業拡大、並びに全国展開の生産販売拠点として関東事業所をここ柏尾町に昭和35年に建設いたしました。

その後関東事業所は地域密着型の工場として操業を行い、柏尾町と共に発展し昨年で50周年を迎えることができました。

今後も「現地主義」の工場として操業を続けていきたいと思っておりますので、柏尾町の皆様方、今後とも末永く御付き合いの程宜しくお願い申し上げます。

主要生産品目紹介

【段ボールシート・ケース】

私たちの生活に身近で接している段ボールはライナ・中芯という3枚の紙を貼り合わせて作られ丈夫で軽量・低コスト等の利便性を備えています。

森紙業は包装のプロフェッショナルとして50余年のノウハウと最新鋭設備を駆使し最高の製品を最適なタイミングで供給します。



環境への取り組み

段ボールはリサイクルの優等生といわれエコロジーを始め環境に優しい製品といえます。関東事業所ではISO14001:2004を取得しておりISOのシステムに基づいて環境に優しい製品づくりをおこない、地球環境保全と事業活動の共生を図っております。

また、マクロの活動としては毎週末5S活動で工場周りの清掃美化を行っております。

ホームページ: <http://morishigyo-gr.co.jp>

2 ポーラ化成工業株式会社

POLA

ポーラ化成工業株式会社 横浜研究所

操業開始 1962年1月

敷地面積 39,546m²

取扱品目 POLA B.A RED

POLA WHITE SHOT QL



事業所の成り立ちと柏尾町とのつながり

当社は設立当初から静岡市を本拠地として事業を展開していたが化粧品業界も高度経済成長期に入り、生産能力増強の目的で昭和32年に横浜へ新工場建設の検討が開始された。その後昭和34年には現在の柏尾町560番地にて11963坪の敷地確保に成功し、翌35年1月に工場建設が始まった。昭和36年12月には化粧品製造許可をはじめとする許認可届出も済み、昭和37年には神奈川県知事など多数のご来賓を招いての落成式が挙行された。クリーム色の建物に緑の芝生が映え、化粧品製造所としての気品を感じさせる敷地は、まだ緑の自然が残る当時の柏尾町周辺の環境を考慮し特に騒音の多い機械類はすべて地下に配置するなどの工夫がなされていた。



隆盛を極めた横浜工場であったが、少量多品種生産に対応できる新工場の完成を期に昭和60年にすべての生産を終了、配送センターとしての第2の人生を送ることになった。その後化粧品業界が研究開発に力を入れる時代に突入し、平成2年に工場跡地に延床面積 3,135坪、鉄筋コンクリート4階建ての横浜研究所が建設され稼働が始まった。大海原を航海する船の帆先をイメージしたロビー外観は斬新であり、JR東海道線の乗客の目をひく存在であった。工場より受け継がれた正門付近の緑地は「憩いの森」として現在も残っており、東海道を行きかう人や箱根駅伝のランナーの目を楽しませている。



取扱品目紹介

【化粧水シプレ/コールドクリーム】

横浜工場黎明期の主力商品。ゲートミキサー、化粧水製造機、オンレーター等の最新機器を駆使して製造。最高日産数は1万個を記録。



【B.A RED】

ヒット商品となったTHE B.Aを進化させたスキンケアシリーズ。抗糖化理論は横浜研究所の成果であり、国際学会でも発表している。



環境への取り組み

内容物エコスタンダード(薬事法や業界自主基準に則った環境体応)と容器包装エコスタンダード(過大包装廃止、リサイクルなど)の2つの自主基準を設定し、商品企画・設計段階からどのような環境対応が必要か検討し、原材料の調達からお客様が使用後の容器を廃棄されるまでの、商品のライフサイクルに合わせた環境配慮型商品作りを研究しています。敷地には全体の23%に当たる緑地を設け環境に配慮。



ホームページ: <http://www.pola-rm.co.jp/>

3 山崎製パン株式会社



山崎製パン株式会社 横浜第一工場

操業開始 1964年4月
敷地面積 15,444.3㎡
生産品目 食パン・菓子パン・和菓子・洋菓子



工場の成り立ちと柏尾町とのつながり

昭和34年11月横浜市神奈川区子安に、横浜工場として稼働。昭和39年4月に戸塚区上柏尾町に移転。昭和59年12月より再開増築工事を開始し、昭和62年5月に現在の横浜第一工場が稼働しました。
工場は、365日24時間稼働しており、製造されたパンは、赤いパントラックで1日1・2回お店に届けられています。

<稼働当時>



<現在>



近隣の方々と交流を図る為、毎年8月上旬に納涼祭を開催しております。2011年度は8月3日に開催し、約1,000名の方々に来場頂きました。
また、柏尾小学校をはじめ近隣の小学校を中心に工場見学会を実施しています。震災後、安全面を考慮し工場見学を一時中止しておりますが、今後も体制を整え再開していきます。

<納涼祭>



<工場見学>



主要生産品目紹介

【ダブルソフト】

平成元年の発売以来ふたつ山の独特の形状とミミまでソフトな食感が大好評のダブルソフト。ロドけがよく、香りの豊かさが特徴です。



【コッペパンジャム & マーガリン】

昭和30年代に人気を集めた、なつかしのコッペパンを現代風に復刻。サクツとした軽い食感のパン生地に、イチゴジャムとマーガリンをたっぷりサンドし、ちょっぴりリッチな味わいに仕上げました。



環境への取り組み

山崎製パンでは、高効率機器の導入・自然エネルギーの利用・エコドライブの推進により、CO2削減を図っています。また、食パン耳等の副産物を菓子やパン粉の原料、飼料原料としてムダなく再利用しています。

横浜第一工場では、省エネ・リサイクルを強化する為、環境推進委員会を設置しています。委員会の中で省エネパトロールを実施し、工場全体で環境活動に取り組んでいます。



ホームページ : <http://www.yamazakipan.co.jp>

4 株式会社ブリヂストン



株式会社ブリヂストン 横浜工場

操業開始 1938年7月
敷地面積 302,000㎡
生産品目 コンベヤベルト、免震ゴム、防振ゴム
ウレタンフォーム、OA用精密部品他



工場の成り立ちと柏尾町とのつながり

ブリヂストン横浜工場は、1938年7月に13万5千平方メートルの敷地面積で操業を開始しました。操業初期は、再生ゴムの他、防振ゴムなどを生産していました。その後、自転車タイヤやゴルフボールなどの生産を経て、現在では、コンベヤベルト・免震ゴム・自動車用防振ゴムなどを生産しております。柏尾町内には、今までいくつかの社宅・独身寮がありました。社宅では、1956年に殿ヶ谷アパート（1992年解体）が柏尾町827に竣工しました。

独身寮では、柏尾青年会館が柏尾町150-7に、並木青年会館（1998年解体）が並木1042-1に竣工しました。



当時より町内会との関わりは多く、特に柏尾青年会のソフトボール大会では、殿ヶ谷社宅と並木青年会館が優勝を飾るなど会員相互の親睦を図ってまいりました。最近でも弊社の納涼祭に地域の方がたくさんお越し下さりました。そして、2008年の横浜工場操業70周年記念行事には町内会の役員及びご家族の方にブリヂストン吹奏楽団の演奏を聴いて頂きました。さらに2010年には地域友好座談会と称して地域の発展を目指す懇談会を開催することができました。今後も地域社会の一員として柏尾町の発展に取り組んでいきます。



主要生産品目紹介

【コンベヤベルト】

鉱石、石炭、土砂などを輸送する設備に使用され、耐久性、耐熱性の高い技術が用いられています。



【免震ゴム】

ビルなどの建築物や橋などの構造物を地震から守ります。建物の下に設置し地震の揺れを建物に伝わりにくくします。



環境への取り組み

ブリヂストンは、エネルギー効率の向上、及びCO2排出量削減による地球温暖化防止を図るため、太陽光発電システムの導入を進めています。横浜工場の試験・開発センター（写真）には、南面に1,440枚、屋上676枚の太陽光発電パネルが設置され、発電量は最大で200kw（40w蛍光灯5,000本程度）になります。発電された電力は工場の空調、照明などに使用されています。



ホームページ: <http://www.bridgestone.co.jp/>

5 六国建設株式会社



〒244-0801 横浜市戸塚区品濃町 550-5

TEL 045-825-8778 FAX 045-825-8779

昭和 63 年 4 月 六国建設有限会社を設立

鉄筋コンクリート造を始め鉄骨造、木造の共同住宅新築工事を主に手掛ける建設会社として設立。

平成 2 年 4 月 グループ会社としてケイアール株式会社を不動産部門として設立。築後の管理にも力を注ぐ。

平成 2 年 5 月 六国建設株式会社に組織変更。

平成 4 年 3 月 本社を横浜市戸塚区品濃町に移転。

平成 6 年 自社分譲マンション「アール・ケープラザ」シリーズの販売開始
平成 23 年現在 23 棟 1200 戸超を展開。

官公庁への入札参加、横浜市・神奈川県をはじめ多数受注、公共建築物の新築改築を手掛ける。

平成 7 年 自社分譲住宅「アール・ケータウン」シリーズの販売開始。

平成 12 年 福祉施設を受注、公共事業での生活支援センター、老人ホームを手掛ける。

平成 16 年 10 月 新社屋建設に伴い本社を品濃町 550-5 に移転。

平成 18 年 福祉施設のノウハウ生かし民間でのグループホーム建設にも力を入れ社会貢献に携わる。

現在も民間を中心として設計施工での実績を礎に地域密着で常にお客様のニーズにこたえ、より良い提案を行い皆様と共に幸福実現の為の総合建設業として努力を致しております。

柏尾町の皆様とは前記した様にお住まい、共同住宅建設でのお手伝いをさせて頂いたのはもとより、地域での行事にも参加させて頂いており、平成 22 年には「柏尾町内会館」を設計施工でご下命頂き町内の皆様に愛され末永くお使い頂く事の出来る建物を提供させて頂きました。



〈社名の由来の六国見山より富士山を望む〉



〈社屋エントランス〉

ホームページ：<http://www.rokkoku.co.jp/>

6 アマカンパニー



(1) 会社概要

- ・代表者 : 天本 勇 所在地 : 戸塚区柏尾町 294-1
- ・創業年度 : 平成元年(1988)
- ・事業内容 : 主に建築金物の加工(鉄、アルミ、ステンレス)多くは特注品

(2) 主な製品

形状に合った製品を製作。介護用手摺り加工および階段等。各種板金加工

(3) 代表者略歴

- ・柏尾町に生まれ育ち、川上小学校、舞岡中学校と経てきました。
- ・創業当初は大和市代官にて始まり平成7年に現住所に移設。
- ・町内会とのつながりは前会長齋藤宣雄氏の依頼で毎年7月27日の祭事を行う大山不動尊の改修工事、及び各所ゴミ集積場所の整備等を担ってまいりました。町内会評議委員として働き、平成20年より新町内会館建設委員として参加、平成22年3月に落成する事が出来ました。



〈アマカンパニー外観〉

(4) 工場設備

- ・シャーリングM2445 アマダ
- ・ベンダーR G 100 アマダ
- ・コーナーシャーC S HW-220 アマダ
- ・セットプレスS P H 30 II アマダ
- ・S P H 30
- ・メタルソー日立
- ・半自動溶接機パナソニック

7 長沼紙器印刷株式会社

長沼紙器印刷株式会社

代表取締役社長 長沼 紘治

「柏尾の100年史」記念誌の発刊おめでとう御座います。

柏尾町内の皆様、近隣の皆様の暖かいお気持ちと力添えのおかげで、現在の弊社があるものと感謝の気持ちでいっぱい御座います。

弊社は、昭和36年1月6日に法務局に「ダンボール及び一般紙器の製造販売に伴う一切の事業所」と言うことで、法人の認可が下りました。

森紙業が関西より横浜に進出して横浜工場が昭和35年3月31日に操業を始めた際に、母(タケ)が御近所の方数名と今で言うパートとして働いておりました。事業を興すきっかけとなったのは、私が高校3年在学中の頃と思いますが、森紙業の下請けをしてみないかとの話からでした。仕事を始めた頃は、忙しく大変な思いを致しました。御近所の方々の助けをお借りして、朝の8時から夕方5時、そして夜間は20

時から22時頃まで、また家の者は深夜まで仕事をして、森紙業に納品がやっと出来たという記憶をしております。下請けを2年位させて頂き、3年目位で独立し現在に至っています。

これも、偏に柏尾町内の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

柏尾町の御世話になり、柏尾小学校PTA7代会長、(昭和55年度)戸塚消防団団員、保護司等柏尾の町内会員として、今後共、皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。



<長沼紙器印刷正面>

8 江橋住宅総合サービス

創業年度： 昭和53年11月1日

住所： 戸塚区柏尾町1007番地

業務内容：

前身である江橋ガラス店よりリフォーム会社としてスタート。

創業当時より柏尾町の方々には大変お世話になっております。

平成3年に当初は作業場として使用させていただいていた柏尾町1007番地に移転、現在に至っております。

柏尾町とのつながり：

青年会、消防団に加入させていただき、活動をさせて頂いています。

また、昨年建築された会館建設においては建設委員会の一員として微力ながら協力させて頂きました。



<現在の江橋住宅総合サービス社正面>

9 柏屋商店 — 地元と共に —

創業昭和7年、酒類、食料品、タバコ、塩、雑貨小売の看板で国道1号線沿い、鎌倉郡下柏尾不動坂に地域のよろずや的な店として開業致しました。

お客様は地域の農家の方が多く、立ち飲みコーナーもありましたので、野菜を市場へ出荷した帰りにお酒を飲みながら次期農作業準備やご家族



<昭和32年頃の柏屋商店>

の話などの世間話が興じられ酒屋は情報交換の場所でもありました。

店の仕事は朝の掃除に始まり、当時は樽詰めの味噌や油をはじめとして計り売りが多く、酒や醤油は専用の徳利を使用しておりました。又、この徳利の水洗いには店前の水量豊富な井戸を利用しており自然にも恵まれていました。

午前中は御用聞きをして、午後から荷造り、夕方までに自転車やリヤカーなどでのお届けでしたので、農道が多い舗装されていない道を運ぶのにも技が必要でした。

集金は年2回のメ通帳で半年分の計算をして請求をしますので、年末などは忙しく、平行してお正月用の酒などの配達もあり、新年の準備は除夜の鐘を聞きながら致したものです。休みは年2回の盆と正月位なものでした。

町内の行事や神事、冠婚葬祭にはご近所の方々と一緒に参加して協力し助け合いながら絆を深めていきました。

当店は昭和58年にコンビニ“コミュニティストアかしわや”となり、より地域の皆様にご利用いただけるお店として、夏祭り、運動会、もちつき大会、バス旅行等、様々な行事に於いて、飲み物、お弁当、菓子パン等のご注文戴いております。又、元旦の町内マラソン大会のスタート地点としてご利用戴き、当店も明るい年のスタートを迎える事ができありがたい事と存じます。

これからも末永く地元の皆様にご利用いただける店でありたいと思う次第です。



〈角と大徳利〉

柏屋商店 代表社員 金子 基

10 齋藤牛肉店「横屋」の由来

柏尾町の齋藤牛肉店は古くから「横屋」の屋号で地元の人に親しまれている。横屋の屋号の由来が書かれた「額」があるとのことで現社長の齋藤正二氏宅に伺った。

その額が掲載のもので、旧東海道の戸塚宿の手前 五太夫橋の横にあったことから「よこや」と呼ばれたとのこと。絵の中の「よこや」ののれんには「酒」「めし」の字が見えることから「御休み処」として旅人や地元の人に親しまれていたものと思われる。現在の牛肉店は先代の齋藤与三郎氏が大正中頃から始められたそうで、この与三郎氏は柏尾町の老人会（柏和会）の会長として実に16年間（昭和39年8月～昭和55年5月）の永きに渡りその任を果たされ、旧柏尾公民館には氏が揮毫された額と古木に書かれた「柏尾公民館」の銘板（写真）が掲げられていた。（現在町内会館保存）この額は、文中に名前のある齋藤七郎氏の手になるものだそうで、昭和41年初夏に完成されている。また長男の源蔵氏は若い時に板寫家の養子となり、柏尾町内会第二代会長になられたことでも知られている。まさに当時の柏尾町を支えられた家柄でもあった。

（編纂委員会）



〈横屋の由来 額〉

戸塚宿 柏尾の横屋 繁盛の図（明治十年頃）

上り下りの東海道五十三次の一つなる江戸より十里の戸塚宿の手前にある松原の五太夫橋は横屋の繁盛振りと共に旅人に印象深きところ。昭和の今となりては知る人ぞ少なれば老いの手の寂しさに書きしるす。

昭和四十一年 初夏

明治の生き残り老人 源蔵、ちゑ子、与三郎、七郎、亀吉



〈齋藤与三郎氏〉



〈柏尾公民館銘板 齋藤牛肉店寄贈〉



〈現在の齋藤牛肉店〉

11 手打ちそば やぶ忠

・創業

やぶ忠そのものは昭和46年8月(1971)に創業しているが、柏尾町の店舗は昭和56年9月(1981)にオープンしている。

・お店の紹介

やぶ忠のPRポイントは「手打ち蕎麦屋」であること。そばは昔からの自然食品でこの品質を出来る限り維持したいと思っている。

・柏尾町とのつながり

以前から国道 1 号を良く利用しており、たまたま駐車スペースを持った場所を確保できたことで開業に踏み切り現在にいたっている。

・特記事項

昭和 60 年頃からやぶ忠さんの奥の座敷をお借りして柏尾町や柏尾連合の会合やレク大会の反省会等を度々持たせていただき、会合の後はお酒を飲みながら懇談し最後に美味しい蕎麦をいただくという習慣が出来上がり 20 年以上になっている。地域で活動するメンバーにとってはなくてはならない場所で、職人氣質のご主人といつも笑顔を絶やさない奥さんとの絶妙のコンビが人気のお店である。（編纂委員会）



〈改装前（平成 17 年）の旧店舗〉
（宮原啓二氏所蔵）

12 舞岡柏尾地域ケアプラザ

「柏尾の 100 年史」発行にあたり私どもケアプラザについて紹介させていただきます。

舞岡柏尾地域ケアプラザは、平成 12 年 6 月この地に開所しました。この施設の目的は「いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせるよう地域の保健・福祉を総合的に提供する」で、デイサービス、ケアマネジャー、地域包括支援センター、地域活動交流事業を 4 本柱とし、高齢者のみならず障がい者、子育て支援まで地域のニーズに合わせて各種の事業を展開しています。

このプラザ運営に関しては、柏尾町の皆様にも日頃から大変お世話になっているところです。具体的には、故斎藤宣雄会長にはケアプラザの運営協議会の会長として何かと面倒見ていただきましたし、ケアプラザの開所 5 周年記念で初めてプラザ祭りを開催した際には、連合単位では体育指導委員、青少年指導員の皆様、柏尾老人会の皆様、柏尾町からは柏尾婦人部の方による出店、民生委員さんには擬似体験等でお世話になりました。おかげさまで今は毎年恒例の行事となっています。また、日々の活動においては、柏尾婦人部の皆様にはデイサービスでの定期的なボランティア活動、民生委員の皆様には包括への個別相談ケースでの連携、地域の皆様とは夏祭りや敬老会



〈ケアプラザ祭り 平成 23 年〉

での交流など本当にお世話になっています。他に連合単位で考えてみましても、こどもフェスティバルや柏尾小4年生対象の高齢者擬似体験など地区社協の皆さんとの共催事業、インディアカ大会、防災訓練への参加、食事会での交流など数えあげたら切りがありません。このような今までの関わりから、柏尾町という地域の力強さを感じています。

今回、地域の100年史発行にあたり心からお祝いと日頃の感謝の気持ちを申し上げます、柏尾町が今後益々発展し、より住みやすい地域となりますよう祈念致します。

舞岡柏尾地域ケアプラザ所長 鈴木 登志子

13 柏尾小学校コミュニティハウス

(1)はじめに

コミュニティハウス（学校施設活用型）は、「横浜市生涯学習基本構想」において、幅広い年齢層の方に生涯学習や地域活動の場として、また、学校と地域との交流・連携を深める場として中学校区程度に1か所を目標に設置された学校施設を活用した施設です。

(2)柏尾小学校コミュニティハウス

①開設月日：当柏尾小学校コミュニティハウスは、平成11年4月に開設されました。管理運営については、運営委員会で方針決定することとし、委員13名、顧問1名、館長1名、スタッフ5名で発足しました。

②施設概要等：研修室(多目的室)2室(定員15人と定員35人)・和室(12畳)市民図書室及び簡単な打合せができるコーナーがあります。

また、学校開放に伴う校庭、体育館の管理も行っています。現在、研修室・和室の利用登録団体は30余団体あり、打合せや会議、各団体の練習の場として活用されています。22年度は、年間27,700人の利用者(研修室等8,407人、体育館・校庭19,293人)があり、生涯学習や地域の方の交流の場として定着しています。



〈柏尾小学校コミュニティハウス〉

(3)地域との連携：当コミュニティハウスも、

柏尾地区のコミュニティ施設の一つとして、地区連合町内会の事業等に参加しています。22年度の柏尾連合20周年記念事業では、例年コミュニティハウスが行っている発表会も一緒に開催させていただき好評でした。

今後も、地域ニーズに沿っただれもが気軽に利用できる施設として運営していきたいと考えています。

柏尾小学校コミュニティハウス 館長 小田 幸男

14 柏尾スマイル保育園

社会福祉法人 豊会



柏尾スマイル保育園

戸塚区柏尾町909番地1

TEL045-820-3016 FAX045-820-4016

〈駅まで迎えに行きます〉

社会福祉法人 豊会（理事長 佐藤智代子）は、平成12年3月8日に設立し、所在を横浜市南区六ツ川三丁目77番地7に置き、平成12年4月1日に六ツ川みどり保育園が設置認可され、第2種社会福祉施設「保育所」の事業が始まりました。平成20年4月1日には六ツ川みどり保育園分園が南区六ツ川一丁目で設置認可され、そして平成23年4月1日に戸塚区柏尾町909番地1で柏尾スマイル保育園が誕生し、現在に至っております。

柏尾スマイル保育園（園長 小山亮吉）は、園児定員が60名で、生後57日目の赤ちゃんから、小学校就学前のお子さんまでお預かりしております。柏尾町の自然を最大限に活かし、「すくすく」「すこやかに」のびのびと育て貰えるような保育を展開しております。

柏尾スマイル保育園が建っている土地は、園長の小山亮吉の生まれ育った土地で以前は屋号を「車屋」と称し、大八車の車輪を作る鍛冶屋を営んでおりました。又、地域の方々に農耕道具を提供したり、庭の手入れをする造園業などもしておりました。

元々は戦前より現在のポーラ化粧品の在る所に住んでおりましたが、昭和35年に今の所に移りました。

先代の小山亀雄は、町内会の保健委員を30年以上務め、ゴミ置場の管理や、消毒剤などの配布等をしておりました。又、王子神社の行事や、恒例の草刈りなどにも積極的に参加しておりました。

柏尾スマイル保育園は地域の皆様と共に、開かれた保育園として、地域児童福祉に貢献して参りますので、宜しくお願い致します。



〈柏尾スマイル保育園外観〉

15 柏尾のびのび学童保育所

学童保育所とは、小学校低学年の児童の保護者が、就労や介護等、様々な事情により児童の放課後健全育成を行えない場合に限り、児童を保育する場所です。「のびのび学童保育所」が初めて柏尾町に登場するのは、昭和56年（1981）。当時、女性の子育てと仕事の両立に対する理解が、現在ほど浸透しておらず、設立にあたり多くのご苦労があったと推測されます。

のびのび学童保育所の前身は、昭和54年4月(1979)、東郷医院院長のご好意で、医院の片隅から始まった保育事業です。その後、昭和56年4月1日に横浜市の委託事業として認可され、柏尾町1017番地にのびのび学童保育所はスタートしました。初代の運営委員長は、齋藤福太郎柏尾町内会会長で、運営委員会に名を連ねて下さった方々は、子供会会長、民生委員、体育指導委員、青少年指導員、PTA会長、柏尾小学校校長など、柏尾町で重要な役割を担う方々でした。その後、深瀬政雄氏、現在の齋藤純一氏まで3代の運営委員長によって維持され、今年(2011)で30周年を迎える委員会のメンバーは、ほぼ変わることなく継続して下さっています。平成13年10月6日(2001)に、初代運営委員の小宮寛昭氏のご好意により、現在の柏尾町1276番地に移転。交通安全の面、柏尾小学校の側という立地条件の恵まれた環境により、児童数を増やすことが可能になりました。平成17年(2005)には、横浜市の委託事業から補助事業に移行し、運営主体が運営委員会と父母会に代わり、のびのび学童保育所のカラーは一層ハッキリしたものになりました。

のびのび学童保育所は自立心を養い、自分を自由に表現する力を身に付けてもらうことを指針としております。現在では、障害児の受け入れにも積極的に取り組み、子供達に様々なことを学べる場所である努力を続け、巣だった子供達が、いつでも帰って来られる「もう一つの我が家」であり続けているのです。



〈いつも元気一杯の子ども達〉
(西川真生氏撮影)

16 柏尾郵便局

郵便局は、郵便制度の普及を図るため、前島密により明治時代に創業されました。横浜柏尾郵便局は、昭和15年2月に現在の森紙業(株)付近にて、現局長の祖父により開局されました。その後、昭和42年に現在局舎がある上柏尾町201番地に移転しました。当時は国道1号線に面していて交通量も非常に多い場所から一歩路地に入っただけで静かな場所へと移りました。当時は局舎の2階に区役所の出張所もありました。また旧川上小学校も道路をはさんでありました。

郵便局も郵政省から総務省に再編され郵政事業庁へ、そして日本郵政公社、平成19年



〈柏尾郵便局外観〉

10月には民営・分社化し、郵便局会社へとなりましたが、創業当時とかわることなくユニバーサルサービスを目指し、地域に密着し、地域社会とそこに住む人々に貢献することは、今後とも不変であると思います。

17 舞岡中学校 — 柏尾の100年史によせて —

横浜市立舞岡中学校

校長 青木 正彦

本校は、戸塚区では戸塚中学校、大正中学校に次ぐ3番目の中学校として、昭和37年に開校しました。以来50年にわたり、14,206名の卒業生を送り出しています。昨年11月に創立50周年の記念式典、祝賀会を行い、ゆかりの方々と共に本校の歴史を振り返りました。舞岡中学校が今日あるのは、地域・保護者の方々のご支援、ご協力の賜であったことを、改めて強く感じた次第です。

本校の学区は、柏尾小、舞岡小の全学区、東戸塚小の半分以上の学区から成り立っています。24年度は柏尾小53名、舞岡小33名、東戸塚小67名の計153名が入学を予定します。本校が開校した当時は、川上小と東戸塚小から児童が入学していました。昭和44年には柏尾小学校が川上小から独立開校し、昭和62年には舞岡小学校が開校して、現在に至っています。本校は戸塚中から分かれて開校しているため、柏尾の児童は、昭和22年からは戸塚中学校に、昭和37年からは本校に入学しています。

毎年12月に柏尾小学校で、柏尾地区伝統の「餅つき大会」(10回目)が盛大に行われていますが、4年前から学校・家庭・地域協働事業の一環として本校も共催させていただくようになりました。夏にも柏尾地区で盛んな「インディアカ大会」を共催させていただき、本校の生徒は、どちらの行事も楽しみにしていて、多数参加しております。

一昨年の22年には、柏尾連合町内会創立20周年記念式典が行われ、本校の吹奏楽部が演奏し、お祝いをさせていただきました。柏尾小学校の運動会では、本校のマーチングバンドの演奏が恒例となって、柏尾の地域の皆さまに親しまれております。

本校の生徒は、柏尾の地域行事に参加したり、職業体験、福祉体験を通して、柏尾の地域の方々とふれあうなど、貴重な体験を積んでいます。これからも末長く交流を、またお付き合いの程をお願いいたします。

最後に「柏尾の100年史」の編纂、発行、誠におめでとうございます。そして歴史と由緒ある柏尾地区の益々のご発展をお祈りいたします。



〈舞岡中学校校舎〉

18 戸塚消防署吉田消防出張所の概要

昭和23年3月、自治体消防発足とともに誕生した戸塚消防署（現庁舎より70m戸塚駅より）は、職員32人、消防車6台の陣容で業務を開始しました。

それから31年後の昭和54年5月、吉田消防出張所が吉田町947-3に職員15人、消防車1台（敷地面積1,230㎡・鉄筋コンクリート平屋建・延べ面積434.88㎡）で開設されました。当時は柏尾川が毎年のように氾濫していました。

昭和55年11月に救急車が配置され、昭和63年3月に救助工作車が配置されました。また、平成18年にはミニ消防車が配置され、機動二輪車とあわせて4台が配置されています。

職員は出張所長、特別救助隊、救急隊、ミニ隊で25人が勤務しており、受持管内は柏尾町、上柏尾町、吉田町、舞岡町、南舞岡一丁目～四丁目となっています。

救助工作車には、大型油圧救助器具、ハンマードリル、有毒ガス測定器、放射線測定器、簡易呼吸器、送排風機、救命ボート、削岩機、レスキューツール等の資機材88点が積載されています。平成23年3月の東日本大震災では、当日のうちに仙台市宮城野区へ派遣されました。

救急車には、心電計、血中酸素飽和度測定器、人工呼吸器、自動対外式除細動器、静脈路確保用資器材等64点が積載されています。平成23年は、2562件の救急出動に対応するとともに最新の医療知識と救命処置技術の研鑽に努めています。

開設から33年目を迎え、吉田消防出張所は、防火・防災活動を継続しつつ、地域の防災拠点として、区民生活の安全と安心して暮らせる街づくりを目指します。



〈吉田消防出張所開庁風景：昭和54年〉



〈吉田消防出張所〉

戸塚消防署吉田出張所所長 早川 啓太

参考資料及び資料提供者名

(敬称略、順不同)

戸塚の消防	ふわくのあゆみ				
戸塚消防署・戸塚消防団	40年史編集委員会				齋藤 宣雄
戸塚の消防	戸塚の消防 50周年事業実行委員会				齋藤 宣雄
戸塚区郷土誌					齋藤 宣雄
ふるさと戸塚	体験でつづる明治・大正・昭和				齋藤 宣雄
柏尾地区航空写真					齋藤 宣雄
戸塚今昔	目で見る戸塚の歴史	1100円			柏尾町内会
〃					金子 基
〃					齋藤満津江
柏尾公民館	土地賃貸借契約書			亀井俊夫氏所蔵	柏尾町内会
平成23年賀詞交換会記念写真					柏尾町内会
川上青年団下柏尾支部	団旗				柏尾町内会
柏尾町内会館物語	柏尾町内会館落成記念誌				柏尾町内会
柏和会会員名簿歴代会長リスト					柏尾町内会
柏尾公民館落成式	記念写真				森 千枝子
初代会長 齋藤茂吉氏	記念写真	2枚			齋藤 ミツ
かわかみ	横浜市立川上小学校創立100周年記念誌				齋藤 ミツ
益田茂平氏の手記	No.1 郷土百年によせて				益田 茂平
	No.2 下柏尾 大正時代の地名と戸数				益田 茂平
	No.3 柏尾の祭礼				益田 茂平
	No.4 関東大震災 大惨事				益田 茂平
幼き日の舞岡	益田茂平翁自叙伝				益田 茂平
〃					齋藤 キン
川上消防組	表彰記念誌		昭和7年5月		齋藤 孝次
第3期青年会活動記録	写真	5枚			齋藤 孝次
戸塚の消防	50年のあゆみ	50周年事業実行委員会			齋藤 孝次
川上村立青年訓練所	修了証			齋藤源次氏	齋藤 孝次
川上村立青年訓練所	写真	校舎前			齋藤 孝次
川上村立青年訓練所	写真	校庭			齋藤 孝次
昭和3年御大典記念写真	(川上小学校にて)				齋藤 孝次
川上小学校移設地公図	写し				齋藤 孝次
入営旗及び餞別帳				齋藤源次氏	齋藤 孝次
かみかしお	上柏尾町内会総務部文化			齋藤一雄氏執筆	古谷 登
柏尾の旧風景	写真	6枚			小宮 幸雄
古図					齋藤 繁助
水方帳					齋藤 繁助
頼母子講名簿					齋藤 繁助
柏尾の流れ	柏尾小学校創立10周年記念誌				齋藤 繁助
戸塚区郷土誌	戸塚区観光協会	非売品			齋藤 繁助
川上尋常高等小学校	学校手帖				齋藤 繁助
川上小学校記念写真		2枚			齋藤 繁助
第2期青年会	優勝記念写真	2枚	昭和24年		齋藤 君江
川上小学校校舎写真		1枚			齋藤 節子

どんど焼き 写真帳		齋藤 節子
王子神社「しおり」	建武中興 650 年記念	齋藤 幸男
とみづか 第 35 号、37 号	戸塚歴史の会会報 (鎌倉ハム)	馬場 芳宏
皇国地誌	横浜市文化財研究調査会	戸塚歴史の会
下柏尾古図	明治 15, 39, 大正 10, 昭和 26, 46, 平成 7	馬場 芳宏
鎌倉郡下柏尾村村柄御尋書上帳	天保 14 年	馬場 芳宏
鎌倉郡下柏尾村明細帳 (相模国村明細帳)	明治 3 年	馬場 芳宏
鎌倉ハムの起源について		
益田直蔵の場合	郷土よこはま 69 号	益田 勇
川上小学校	昭和 14 年卒業記念写真帳	加藤 榮作
成正寺本堂落成記念	稚児行列写真 2 枚	加藤 榮作
川上小学校生徒のズイ虫取り写真	昭和 10 年前後	加藤 榮作
不動坂周辺写真 (渡線橋工事)、戸塚駅周辺洪水写真	11 枚	天本 武
川上小学校	各種記念写真 5 枚	天本 武
柏和会、成正寺檀家、婦人部旅行写真	15 枚	天本 武
忠魂碑、王子神社記念写真	2 枚	天本 武
西ヶ谷裕一氏アルバム	2 冊	天本 武
戸塚区制施行 30 周年記念誌	戸塚区役所	天本 武
戸塚区制施行 25 周年記念誌	横浜市戸塚区役所	齋藤満津江
昭和初期の柏尾の地図	齋藤英夫氏所蔵	齋藤満津江
横浜市史 第 1 卷 (昭和 33 年 3 月刊行)	齋藤英夫氏所蔵	齋藤満津江
川上消防団 写真	2 枚 齋藤英夫氏所蔵	齋藤満津江
川上小学校 校舎全景	大正初期 齋藤英夫氏所蔵	齋藤満津江
川上小学校 卒業証書	齋藤英夫氏所蔵	齋藤満津江
柏尾の流れ 創立 30 周年記念誌	柏尾小学校	松浦絵里佳
市民図書館の思い出	柏尾小学校市民図書館閉館記念誌	
柏尾餅つき大会第 1 回資料	学校 5 日制支援事業推進協議会 (含 VTR)	岩田 清
「横浜の町名」	横浜市市民局	岩田 清
「神奈川県地名」	平凡社	岩田 清
柏尾地区航空写真	1944, 47, 48, 49, 68, 77, 88, 2007	団野 博文
鎌倉郡川上村番地反別付図		福田 俊光
〃	下柏尾村全図 (字名一覧)	福田 俊光
神奈川県皇国地誌	相模国鎌倉郡村誌	福田 俊光
横屋の由来図		齋藤 正二
齋藤与三郎翁画像		齋藤 正二
柏尾市場 写真	2 枚	大塚 育夫
益田家の歴史	VTR (古いものから新しいものへ)	益田 武司
旧川上小学校の見取り図		野瀬 茂
川上小学校 120 周年記念誌		瀬野尾 健
柏尾富士見台 30 周年記念史		池原 昌平
戸塚区史 区制 50 周年記念	戸塚区史刊行委員会	齋藤 純一
とつか歴史ロマン	横浜市戸塚区役所 800 円	齋藤 純一
戸塚の散歩みち	みんなで探ろう郷土の歴史実行委員会	齋藤 純一
とつか 70 年目の風景	横浜市戸塚区役所 1200 円	齋藤 純一
戸塚くるぶ	郷土戸塚区歴史の会	齋藤 純一

編纂委員紹介

(敬称略)

編纂委員長	齋藤 純一	柏尾町内会 会長
編纂副委員長	天本 武	柏尾町内会 副会長
〃	団野 博文	柏尾地区青少年指導員協議会 会長
〃	小澤 孝之	横浜市立柏尾小学校 教諭
〃	若林 謙二	(株)ブリヂストン 横浜工場 総務課員
書記	齋藤 すみ江	柏尾地区連合町内会 家庭防災員代表
会計	船井 淳仁	柏尾町内会 副総務
編集Gリーダー	池原 昌平	柏尾地区スポーツ推進委員協議会 会長
委員	齋藤 孝次	柏尾町内会 副会長
〃	金子 基	柏尾町内会 監事
〃	齋藤 節子	柏尾地区社会福祉協議会 事務局長
〃	齋藤 繁助	柏尾町内会 柏和会 会長
〃	野尻 恵美子	柏尾町内会 民生委員
〃	若松 康江	柏尾町内会 婦人部 前部長
〃	伊藤 道江	柏尾町内会 婦人部 前副部長
〃	岩田 清	横浜市立柏尾小学校 前副校長
〃	近藤 睦	横浜市立柏尾小学校 教諭
〃	瀬野尾 健	横浜市立柏尾小学校 P T A 会長
〃	鈴木 一弘	(株)ブリヂストン 横浜工場 総務部長
相談役	馬場 芳宏	戸塚歴史の会 会員
顧問	瀬田 正一	柏尾地区連合町内会 会長
名誉委員	齋藤 宣雄	柏尾町内会 第8代会長 (故人)
アドバイザー	石附 俊明	戸塚区役所 区政推進課 課員



編集後記（柏尾の明日へ）

数年来の課題であった「柏尾の100年史」が漸く第1期調査分として記念誌を発表できることとなった。平成23年2月に編纂委員会を立ち上げ、委員の募集から資料の回収・調査・執筆とこの1年間は本当に忙しい1年であった。第1次原稿の提出までに13回の編纂委員会を開いた他に、最終的な編集作業では「編集グループ」を新たに編成し、パソコンやスキャナ、プロジェクターという現代の神器を縦横に駆使し、更にはインターネットや電子メールの活用で昼夜を分かたぬ編集作業の日々が続いた。またこの編纂事業を通して多くの方々や地域企業・事業所、更には行政とも新たな繋がりを持つことができ、皆さんの期待の大きさと編纂委員会の責任の重さを痛感した次第である。

今振り返れば、素人集団で良くここまでやってきたという達成感も大きいですが、やはり基本は地域への熱い想いであった。先人の残してくれた大きな遺産があるから今の柏尾があるという感謝の気持ちと、今の時代を生きる私たちが次の世代へ何かを残したい、安心・安全な住みよい町を残したいという想いがあったからこそ、この編纂事業が地域ぐるみの運動としてここまで広がったものと確信している。

今回の編纂事業は、あくまで期間を限定した「第1次調査」で、今後5年、10年掛けてその続編、改訂版を出していきたいと考えている。

この間、お世話になった多くの皆様に誌面を借りて心から御礼申し上げると共に、まだ埋もれている多くの歴史の宝物をこれからも掘り続けていくことをお約束して編集後記とさせていただきます。ありがとうございました。

平成24年3月

「柏尾の100年史」編纂委員会

柏尾の100年史

発行日：平成24年3月25日

発行：「柏尾の100年史」編纂委員会

発行責任者：編纂委員長 齋藤純一

〒244-0812

横浜市戸塚区柏尾町1218-2 柏尾町内会館内

印刷：興陽印刷株式会社

表紙題字：船井 杏苑 揮毫
泰書會 杏苑書道教室主宰